

解雇問題を解決し
安全・安心のJALを

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.908 (32-18) 2018年2月16日

内部留保たっぷりANA9000億円、JAL1兆円

安全で働きやすい職場に変えよう

多くの職場で高稼働による労働強化が強まっています。乗務前に倒れて救急搬送される客室乗務員、人員・部品不足の整備現場、決められた休憩時間が確保されないグランドハンドリングなど安全で働きやすい職場に変えるための抜本的な働き方の見直しが求められます。

一方、航空各社は好調な旅客需要に支えられ2018年3月期決算は好業績が予想されており、JAL・ANAは収支計画を上方修正しています。内部留保もたっぷり蓄えており、航空連の試算では第3四半期決算時点でANAは9067億円（2017年3月期決算/7749億円）、JALは1兆1249億円（同1兆692億円）です。利益も確保され内部留保も十分蓄えており、継続的な賃金引き上げは経済の好循環にもつながります。しっかり要求し暮らし職場改善めざしましょう。

ANA・JAL18年3月期決算予想				
ANA		JAL		
17年3月	18年3月		18年3月	17年3月
17,652	19,250	売上高	13,660	12,889
16,197	17,650	営業費用	12,000	11,186
1,455	1,600	営業利益	1660	1,703
8.2%	8.3%	営業利益率	12.2%	13.2%
1,403	1,500	経常利益	1580	1,650
988	1,320	純利益	1210	1,641
7,749	9,067	内部留保	11,249	10,692

単位：億円

内部留保＝資本剰余金＋利益剰余金＋退職給付負債

寒い冬の寒さ、熱波の夏の暑さの中での屋外の整備作業は大変。手当は当然だ」「運航整備の現場では、年休を確保するために出前はマイナスになり作業はハードワークになる。エンジン整備の現場では、部品が不足しているためにタイムリーに整備ができず、年度末が近づけば部門別採算性によって整備が先送りになり、新年度に整備が集中し夏の繁忙期までにエンジン生産が間に合わないことが毎年繰り返されている。こうしたやり方を根本的に見直す必要がある」と話します。

GHU 18000円アップ・人員増・格差是正要求

航空会社の作業品質を支えるグランドハンドリング。人員不足やゆとりのない作業環境を改善するためには労働条件の改善や人員増はまったなしです。

GHU（JGS 札幌労組、JGS 東京労組、JGS 大阪労組、JGS 九州労組）は、18000円のベースアップや時短・



休日増、諸手当引上げ、人員増、腰痛対策、格差・差別の是正などを統一要求として労働条件改善をめざします。JAS 新労組は新制 JASCO にふさわしい賃金制度の改善などを求めます。NAFCO 労組はペア 10000 円、諸手当の引上げ、60 歳以降の再雇用者の賃金引上げなど 9 項目を要求します。

2020 年の首都圏発着枠拡大、東京オリンピック・パラリンピックに伴う増便対応など、空港業務は経験したことのない未経験ゾーンを迎えます。人材確保や器材の準備、保安対策、作業者のスキルアップに向けた教育など課題山積です。労働条件改善はその最初の準備です。

以上

JLU ペア4%・冬期手当・屋外作業手当要求

整備現場では航空機の稼働を上げるために整備作業を夜間帯に行う傾向にあり、勤務も夜間偏重勤務になっています。冬



期の整備作業は「体の芯まで冷え疲労も倍増」とベテラン整備士は話します。また、JAL・ANAはコスト削減のために航空機整備を子会社に業務移管しており、整備子会社の人材確保のためには労働条件引き上げが喫緊の課題になっています。

繰り返されるエンジン整備の先送り

日航ユニオン（JLU）の菊田書記長は「今春闘はベースアップ4%の引上げ、暖房手当、屋外手当などの前進を目指す。厳